

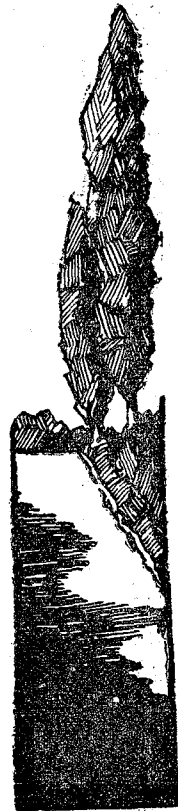
# 論 說

## 緊縮政策と失業救済とは兩立するか

長岡隆一郎

濱口總理大臣および井上大藏大臣が種々の機會に於て言明するところを聞けば、現内閣は緊縮政策を更改する意思は更になく、非募債主義を抛擲する意思も全然ない。しかし此の間に生ずる失業者に對しては極力之を救済する方針であるといふ趣旨を力説して居られる。しかし其の前段に言ふ緊縮政策非募債主義と、後段に謂ふ失業救済とは果して兩立し得る政策であるか。

現内閣は成立以來中央地方を通じて數億圓の事業費を打切り又は繰延べして居る。其の内には例へば海軍の石油の購入費の如き、失業問題と殆ど關係のない打切若くは繰延もあるけれども、多く



の事業費の打切繰延は其の必然の結果として失業者の發生を見るのであつて、語を換へて言へば政府は其の所謂緊縮政策に依て自から失業者を製造しつゝあるのである。若し現下の狀勢に於て日本の金融資本家を徹底的に保護するが爲めに所謂緊縮政策、非募債主義を一貫する事が必要であつて其の結果として多數の中産階級以下の勤勞者が不利益を蒙るといふことは已むを得ぬ。大の蟲を活かすには小の蟲を殺す事もある。現内閣は大の蟲と認むる金融資本家を保護するが爲めに、小の蟲と認むる勤勞階級を犠牲にすると云ふのであるならば、其の方針の是非善惡は別としても、其の主義は兎も角も一貫して居ると思ふ。たゞ社會の人心を和げるが爲めに、形ばかりの失業救済の看板を掲げ、或は僅かばかりの起債を地方に許し、或は僅かばかりの補助金を地方に與へ、羊頭を掲げて狗肉を賣らむとするが如き行ひを爲す事は其の罪斷じて許す事はできぬ。寒さを好む者は宜しく寒帯に赴くべし。暑さを喜ぶ者は宜しく熱帯に向ふべし。晨に百里を北に進み、夕に一里を南に赴いて、寒暑併せ得べしと爲すが如きは、之は明に子供だましの政策であつて、結果は一日一日と北の寒さに近づくものと言はざるを得ない。これは中央及地方の打切繰延を爲したる事業費の金額と、失業救済のために支出したる地方費の金額とを比較して見れば、數字の上に於て明かである。

事業の繰延は、事業それ自體から見れば必ず不經濟な結果を伴ふものである。河川の改修にせよ、港灣の修築にせよ。道路の改良にせよ。都市計畫の實行にせよ。鐵道軌道の延長にせよ。又凡て

の建築の工事にせよ。非常に急いで工事を行へば金が澤山かゝると同時に、又わざと緩くりやればこれも亦多くの不經濟な金を費さなければならぬ。汽船に經濟速力がある如く、工事も亦經濟工程といふものがある。一定の設計計畫の下に事業を進めて居る時に、突然之を繰延べたならば人件費は豫定よりも澤山要るし、機械は遊ばして置かなければならぬし、物價の變動に因る損害も受けなければならず、工事の手戻りから來るところの損害も受けなければならぬ。結局完成年度に至つて豫定の費用は使ひ果し、而も事業は完成しないと云ふ結果を見ることは、過去に於ける繰延の歴史の證明するところである。歳入の缺陷を蔽う爲めに多額の工事費を繰延べて累を後年に貽し、之を行政の經濟化など稱するに到つては、實に甘言を以て世を欺く冠履顛倒の滑稽なる中し分と謂はなければならぬ。

○  
毎日の新聞紙の社會面を披いて見よ。我々が到底涙なしに讀む事の出來ぬやうな悲慘な記事が現はれぬ日は無い。中小商工業者は破産し、勤勞階級は失業し、都市と云はず農村と云はず、今や地獄の責苦に陥つて居る。所謂生活難、失業難のために親が子を殺し、妻が夫を殺す、一家心中、親子心中といふやうな悲慘な出來事を讀む毎に、私は悶々として夜も眠りを爲す事が出來ない。昔封建時代の飢饉の時はいざ知らず、一國の政府が其の財政々策を誤まりたるが爲めに、陛下の罪なき赤子をして此の如き塗炭の苦しみを嘗めさせたる事は明治維新以來の聖代に於て私の始めて見たるところ

の現象である。首相藏相は國民に今一段の努力と忍耐とを求めると云はれたが、職なくして何を努力し食なくして何を忍耐せよと云はれるのか。愛兒將に病に仆れむとする時、親は入院料が高いの安いのと云つて居られるか。一家に借金があるからと云つて、注射や服藥をやめさせて病兒の枕許で忍耐をせよ、努力をせよと講釋して居る間には子供は息を引き取つてしまふ。

○ 學者の説を聞くと失業救済といふことには、難かしい理窟があるやうであるが、我々素人から考へれば、極めて簡単な事であつて、要するに先づ職業の供給量を増進し、又は職業供給量の減少を防止することが必要である。而して失業の救済にせよ、又失業の防止にせよ、人に職を與へるといふことが第一であつて、徒に失業者に金錢物品を與へるといふことは末の又其の末である。一方に於て國家自ら事業をやめ、職業の供給量を減少して置いて、職業が無くなり、失業者が殖えてから、周章て、失業救済の爲めに同じ種類の工事を地方に起せと云ふのは、何としても其の間前後と緩急とを誤つて居ると思ふ。眞面目に失業救済を爲さむと欲するならば、徒に末流の清きを求むる事なく、何ぞ速に其の病の源泉に溯り、一日も早く、事業の打切繰延を中止し、議會の協賛したる本來の適法なる豫算を實行せざるか。而も財源にして足らずんば一日も速に臨時議會を招集し、公債募集の協賛を求めて、有利有益なる事業を中央地方に起すべきである。

○

私は切に濱口内閣に望む。此の際第一に減債基金繰入の増額は之を中止すべきものである。今日は物價が下落して、貨幣の價値が騰つて居る時である。即ち曾て百圓で公債に應募した者が、今日其の公債の償還を受くれば實際は以前の百數十圓に該當する値打の物を貰ふ結果となる。議會の協賛したる地方開發、農村振興の豫算を打切り繰延べ、其の金を以て減債基金の繰入額を増加する如きは、一部の有産階級に不當の利益を與ふる非社會政策極まる暴政である。今日の如き非常の時代には減債基金繰入の増加の如きは當然之を廢めて宜しいと思ふ。而して其の費用を以て中央地方に於ける土木事業なり、農村振興なりの事業を起すべきものである。

○

第二に公債の募集といふことを非常に嫌ふ人がある。しかし公債には其の性質上生産的公債と不生産的公債とあつて、之を一概に論ずることは出来ない。所謂不生産的公債——例へば日露戦争の戦費の爲に發行した公債であるとか、或は震災復舊復興の爲に發行したる公債であるとか、斯かる性質の公債が殖えることは國家の爲に憂ふべき事であるけれども、謂ふ所の生産公債——例へば電氣の擴張の爲にする公債の如きものは、十數年の間には元利を悉く償還して、而も其の後は國庫に年數千萬圓の經常的の純利益純收入を與へるものであるから、斯かる公債は謂はゞ株式會社の株式と同じものであつて、其の増加は少しも虞るゝに足らない。寧ろ現在の如く地價が下落し、勞力費が低落し、機械費も亦著しき下落を見て居る時に於ては、安い工事費を以て利益のある事業を行ひ得る

のであるから進んで斯かる公債を募集して事業を起すべき時期であると云つて一向差支ないと考へる。

電話公債の如く、その事業自體に於て元利を償還して尙ほ且つ國庫に純益を持來ると云ふものでなくとも、例へば道路の改良の如き、河川の改修の如き、或は港灣の修築の如き事業は、國庫に純益を持ち來る勘定のものでないとしても、其の事業遂行の結果は産業を振興し、民間に永久に多大の利益を興へるものであり、而も遅かれ早かれ爲さなければならぬ仕事であるのであるから、斯かる事業は今日宜しく財源を公債に求め繰延、打切どころか寧ろ繰上若くは新に起工して、以て當面の失業者を救ふべきものと考へる。公債増發の結果、其の市價に多少の低落を見る事ありとするも、此の位の損害は當然一部の金融資本家、一部の有産階級をして負擔せしむべきものである。

○  
いづれの國の失業救済の施設を見ても——勿論其の間に多少の差異はあり、又多少の特色はあるけれども——民間の事業が畏縮したる際の應急的の失業救済の方策としては、或は道路の改良であるとか、或は電信電話の擴張であるとか、用排水路の改良であるとか、労働者住宅の改善であるとか、要するに公衆の利便を増進する土木建築工事を起すといふやうなことに其の根幹を置いて居る。而も其の大部分は國費を以て之を支辨して居るのであつて、何人が考へて見ても國が費用を出さずして失業者をなくし得ると云ふやうな手品使ひのやうな名案を案出し得る筈はない。然るに前申す

が如く我國に於ては全然是れと逆行し、國に於ては失業者を製造するやうな事業の打切繰延を行ひ而して地方費をして其の結果の幾部分の尻拭ひをさせて居るといふ現状であつて當然國に於て其の大部分を負擔すべき費用を困窮せる地方費に轉嫁しつゝあり、而も轉嫁されたる地方費の尻拭ひも失業者の大群に比較して見れば僅に九牛の一毛、大海の一滴に止まるのであるから、救済の效果殆ど見るべきものなきは當然である。若し斯かる状態に永く放任して置いたならば、或は恐るべき社會上の事象を惹起しはせぬかといふことを、私は衷心より憂へて居る次第である。

終に切に濱口内閣の諸公に望む。徒に行懸りに泥むこと勿れ。面目論に捕はるゝこと勿れ。此の際速に非募債主義と緊縮政策とを捨てよ。君子過ちを改むるに何の憚るところかある。宜しく公債を募集して國自ら中央地方に有利有益なる事業を起し、以て飢餓線上に彷徨せる多數國民を救濟すべし。

私は國家と社會との安きを希ふの點に於て決して何人にも譲るものではない。私は國家と社會との安きを希ふ事の切なるが故に敢て諸公の面を犯して此の言を爲した所以である。

(九月十日談)